

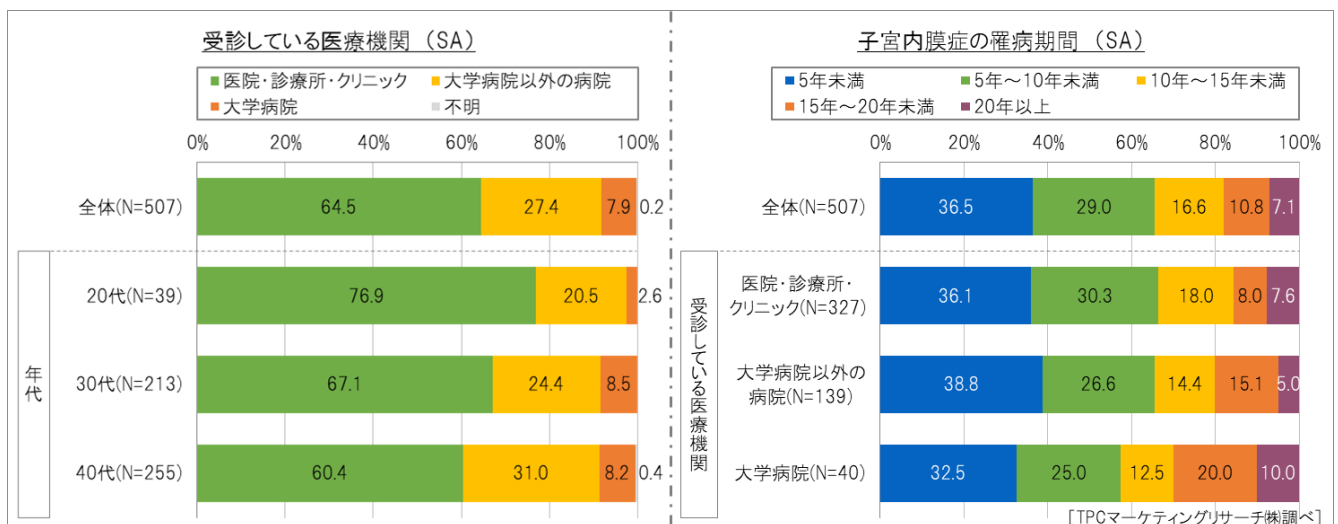
TPC マーケティングリサーチ株式会社

子宮内膜症の患者について調査結果を発表

この程、TPC マーケティングリサーチ株式会社（本社＝大阪市西区、代表取締役社長＝川原喜治）は、医療機関を受診し薬物治療を行っている 20 代～40 代の子宮内膜症患者 507 人を対象に Web アンケート調査を実施、その結果を発表した。

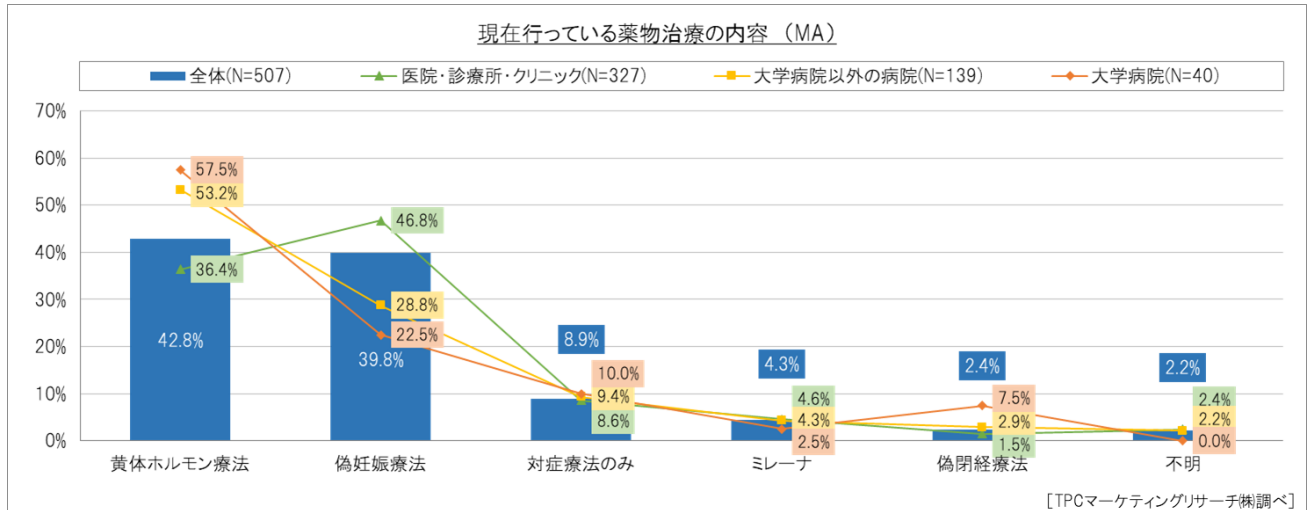
【調査結果】

全体の 6 割以上が医院・診療所・クリニックを受診し、
大学病院を受診している人は罹病期間が長い人が多い。



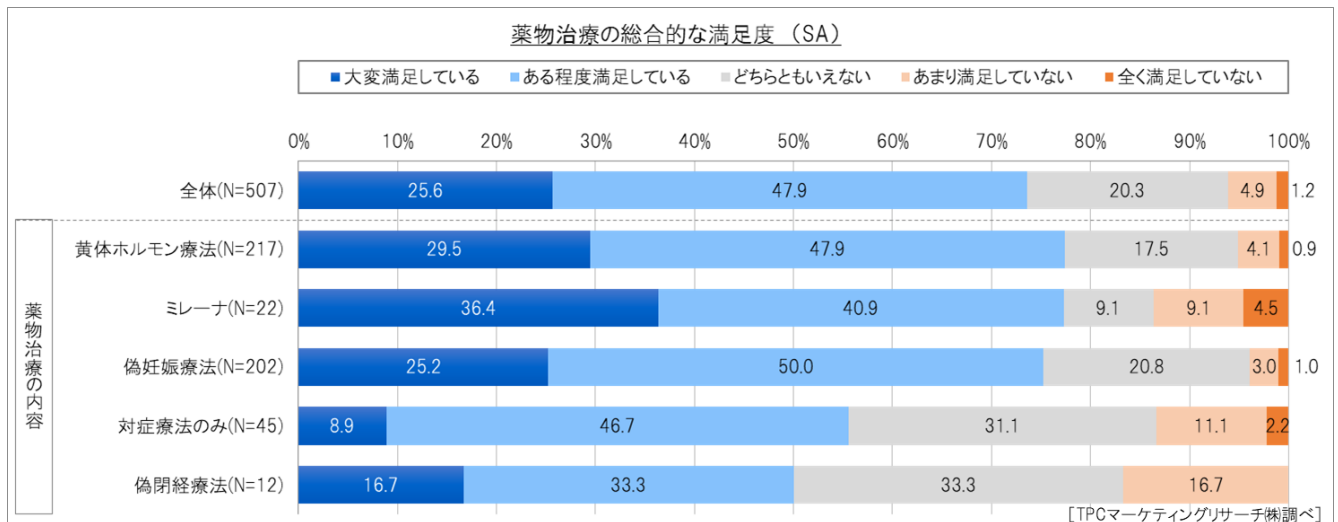
- ・ いずれの年代も 6 割以上は「医院・診療所・クリニック」を受診しており、特に 20 代は 8 割近くが「医院・診療所・クリニック」を受診している。
- ・ 罹病期間をみると、「5 年未満」が 36.5%で最も多く「5 年～10 年未満」が 29.0%で続いている。受診している医療機関別にみると、「大学病院」のみ“10 年以上”の人が 4 割を超え、罹病期間が長い人が多かった。

全体の4割強が「黄体ホルモン療法」、約4割が「偽妊娠療法」を行っており、
 病院を受診している人は「黄体ホルモン療法」の割合が高く、
 医院・診療所・クリニックを受診している人は「偽妊娠療法」の割合が高い。



- ・ 現在行っている薬物治療の内容を集計すると、「黄体ホルモン療法」が全体の42.8%、「偽妊娠療法」が同39.8%でやや「黄体ホルモン療法」の方が多かった。
- ・ 受診している医療機関別にみると、「大学病院以外の病院」「大学病院」では半数以上が「黄体ホルモン療法」を行い「偽妊娠療法」は2～3割であったのに対し、「医院・診療所・クリニック」は「偽妊娠療法」が5割弱、「黄体ホルモン療法」が4割弱となっている。

7 割以上の方は現在行っている薬物治療に満足しているが、
「対症療法のみ」「偽閉経療法」を行っている人は満足度が低い。



- ・ 現在行っている薬物治療の総合的な満足度をみると、「大変満足している」「ある程度満足している」と回答した人（“満足群”）が全体の 7 割以上を占めており、薬物治療に対する満足度はかなり高いと言える。
- ・ 薬物治療の内容別にみると、「黄体ホルモン療法」「ミレーナ」「偽妊娠療法」はいずれも“満足群”が 7 割を超えているが、「対症療法のみ」と「偽閉経療法」では“満足群”の割合が低い。

【調査要覧】

<調査対象>

子宮内膜症の治療のために医療機関を受診し、薬物治療を行っている 20 代～40 代の女性

<サンプル数>

507

<調査方法>

Web アンケート調査

<調査エリア>

全国

<調査期間>

2020 年 9 月

<資料名>

「患者調査シリーズ No.79 子宮内膜症の患者調査」

－薬物治療の内容別にみた満足度と治療薬に求める特性－

<http://www.tpc-osaka.com/fs/bibliotheque/pr310200121>

発刊日：2020 年 10 月 16 日 頒価：540,000 円（税抜）

【会社概要】

会社名：TPC マーケティングリサーチ株式会社

所在地：大阪府大阪市西区新町 2-4-2 なにわ筋 SIA ビル

事業内容：マーケティングリサーチおよび調査レポートの出版

コーポレートサイト：<http://www.tpc-cop.co.jp/>

オンラインショップ「TPC ビブリオテック」：<http://www.tpc-osaka.com/>

ISO27001 認証書番号：IS598110

【本件に関するお問い合わせ】

電話番号：06-6538-5358